

平成30年度調査研究活動実績

議員名 高橋 徹

① 県内河川環境向上に向けての調査研究

鏡川における河川の環境は徐々に改善はみられますが、上流部における豪雨災害において土砂の堆積が著しく多く鮎やうなぎ・あめごなどの生息環境は悪化している。

31年度は土砂の浚渫予算も多く計上されている事から期待している所である。

風倒木についても、関係機関が連携して撤去をしていかなければならない。

又、他の河川についても視察調査を行ってきたが状況は同じで、土砂の浚渫、風倒木などについても積極的に取り組む必要を感じている。鮎の遡上については、落ち鮎について禁止や、保護する事が県下の河川で進んできた事から、県内河川は順調に稚鮎が多く遡上している。

しかし、物部川などでは、増水により鮎が下流へと流れ期待はずれとなった。

鏡川では天然遡上も好調であった。上流部における放流もまずまずであった。31年度における鮎の放流は、放流後増水すると河川に留まる事が少なくなる事から、天候の安定した日に放流をする事を徹底するとしている。

② 道路等の整備について

国道・県道・市道・農道等、県民からの情報提供と自ら視察調査を行い、安全・安心のための道路整備についての改善策等を担当部署に情報提供を行う。旭町・国道33号線改良については残された区間の整備について長年取り組んできた。その成果もあって関係する用地の境界確定について、高知市が単独で予算処置を行い、国土交通省による工事の際、順調に用地買収が進む事が考えられる。この事を持って地元町内会や市・県によって国への事業着手に向けて積極的な陳情を行って行かなければなりません。又、北部環状線福井地区北部から南部への右折レーンについても高知市と協議中であり31年度中に設計協議の合意に向けて取り組んでいく事が求められます。

③ 観光振興調査研究

県内最大の観光客を受け入れている桂浜については、以前から最も力を入れている観光地である。

高知市における道の駅構想は、頓挫してしまいましたが津波対策の避難場所として活用していく事も視野に入れていたことや、桂浜観光の新たな集客施設としての新施設として私は必要と考えていましたので、誠に残念である。又、高知市の現在の桂浜みやげ物店の構想も順調に推移しておらず高知市の関係者の更なる努力を期待している。

④ 林業、農業、畜産の振興について

林業においては、森林率日本一のこれまでの取組みを更に推進していかなければなりません。しかし、担い手不足は深刻な状況となっている。県による新たな人材育成も遅きに失している感は否めませんが、今後の状況を見極めなければなりません。

農業についても、日高、池川、土佐山、南国、夜須等、各施設を視察し、新時代に相応しい経営方法を取り入れ随分と安定した経営状態が保たれて、今後に大きな期待を持つ事ができた。

次に畜産については、嶺北地区に視察を度々行い収益性を高める取組みを積極的に行っている。又、増産についても順調に推移しており、関係者の方々の取組みに感激した事であった。

⑤ 有害鳥獣被害対策について

人口の割合による高知県の狩猟者は全国一となっており、ピーク時、14,500 人が現在は3,600 人となっているが200人に1人が狩猟者となっている。しかし、65才以上がほとんどを占めているため、若者の狩猟者育成に力を入れなければなりません。県においてもあらゆる機会を通じて広報活動を行っていますが、今後の更なる広報活動を展開する必要がある。

イノシシ、シカ、サルの被害も少なくなってきたが、これは猟友会の駆除による成果が出ている。又事故のない狩猟現場を作り上げていくには、教習射撃や練習射撃を必ず行い猟銃を安全で安心して使いこなす事、つまり五ない運動や、四ない運動を徹底しなければなりません。その事によって無事故・無違反の猟友会になるよう会員全員で取り組まなければなりません。